

志桜小だより



9月号

宝達志水町立志桜小学校

TEL 29-2052

FAX 29-2069

校長 松本 幸子

～自ら挑み、「高める」「つながる」「のり越える」子を目指して～

9月

挑戦と成長の2学期へ!



暑い暑い夏休みが終わり、元気な子どもたちの声が学校に戻ってきました。身長がぐんと伸びた子。真っ黒に日焼けした子。旅行に行ったことを話してくれる子。そんな子どもたちの姿から、長い夏休み期間中、どのご家庭も元気で充実した毎日が送れるよう、配慮してくださったことが伝わってきました。また、大きな事故や怪我がなかったことにも感謝の気持ちでいっぱいです。ただ、27日の豪雨により大きな被害を受けた地域やご家庭があります。1日も早く普段の生活に戻れるよう願っております。

2学期も子どもたちにとって挑戦と成長の日々となるよう、教職員一同心を1つにしてサポートしていきます。どんな些細なことでも構いませんので、気になること等がありましたら学校にご連絡いただきますようよろしくお願いします。また、9月とはいえ、まだまだ暑い日が続きそうです。体調を崩すことのないよう、健康管理とともに生活リズムを整えるために、今後とも早寝・早起・朝ごはんへのご協力をお願いします。



力作勢ぞろい 夏休み作品展 科学作品展

9月2日(水)～4日(金)

16:00～17:30 2階図書室



8月の補充学習の時に、「夏休みアンケート」をしました。その結果から、子どもたちは夏休みを十分満喫し、宿題や習い事を頑張っていたということが分かりました。科学作品や工作に時間をかけたり、こつこつドリルや他の宿題をしたりと、努力を積み重ねてきたようです。

本校図書室には、2枚の写真のように志桜っ子の頑張りがたくさん詰まったすてきな作品が並んでいます。多くの保護者の皆様や地域の方々に見いただければと思っています。

北國新聞政経懇話会7月例会は23日、金沢市のANAクラウンプラザホテル金沢で開かれ、本紙で「声に出して読みたい三文書」を連載する明治大教授の齋藤孝氏が「AI時代に求められる教養と伝える力」と題して講演した。齋藤氏は先人の精神文化を継承する重要性を指摘し、「教養の基本は驚くこと。疑問符(?)と感嘆符(!)で頭の中を埋め尽くすことが大切だ」と語った。講演要旨は次の通り。

頭の中を「?」「!」で埋めよう

■講演 齋藤 孝氏 (明治大教授)



から。言葉はほぼその人の精神だ。例えば、世阿弥は「風姿花伝」で父親阿弥の舞を「老木に花が咲いたように」と書き残した。素晴らしいので読んでほしい。

本から引用を
本を読んだら人に話すこ

AIの時代が進み、だんだん人の喜怒哀楽が薄味になっていくと感じる。今の学生はびっくりするくらい反応が薄い。笑わないし、静かだ。コロナ禍で訓練されたのだろう。

そうした中でコミュニケーション力や日本語の力が問われている。日本人にとって日本語は考えるための一番の技である。

今の時代は判断力が重要で、その基は教養にある。教養がないと判断力が怪しくなる。古今東西の文化を継承することで人間の土台となり、教養となる。

日本の武士の心が揺らかなかったのは、継承してきた膨大な精神文化が体に染み込んでいたからだ。江戸時代の寺子屋では教養を音読で覚えたのも、身体的に刻み込んでいたのだ。

先人の思考をたどる教養の基本は「えーっ」という驚きにある。驚きが知を生み出す。日本人は反応しないことに慣れすぎているのか。AIが進んだこの時代こそ「はてな」と「エクスクラメーションマーク」で頭の中を埋めていくことが大事だ。AIに聞けば全

AI時代こそ古典に親しんで

部分分かるが、それでは脳内がなだらかになり、何も考えなくなる。疑問が湧かないければ、なんにも生み出さない脳になってしまう。

そうならないようにどうすればよいかというと、まずは本を読むことだ。本は天才的思考の持ち主の考えをじっくりトレース(追跡)できる。夏目漱石の言葉をたどれば、漱石の思考も全部たどることができ、思考をたどることによって深いところまで知性を学べる。大谷翔平選手の体の中に入っ、あのバッティングを体験するようなものだ。

けれども今の人は本を読まない。それは先人の精神文化を継承する意識が低い

とも大切だ。引用力が教養力になる。全部読もうと思っても挫折する人は、どこでもいいから開いた箇所で見つけた文章を見つけて自分のものにすればいい。全部読んでも引用できないより、一言でも自分の言葉にできた方がいい。

教養とは単なる知識ではなく、自己形成に関わるものだ。優れた古典を読むことで効率的に身につく。古典は古すぎてこれ以上古びないのがある。「論語」などは2500年も前のものなのに、意味がほとんど分かる。知者は感わず。「仁者は憂えず」「勇者は懼れず」。人間は、知仁勇の三つがあれば大丈夫なのだ。

「聞くこと」を大切にして 「?」「!」につなぐ

2学期は「聞くこと」を大切にしていきます。人の話をしっかり聞くことができる人は心の優しい人です。自ら挑み、「高める」「つながる」「のり越える」ためにも、人と関わりその人から話を聞くことは欠かせません。その話の中の驚きから得た「?」「!」が、新聞内容の教養につながることもあります。また、授業では、話を聞くことで今何をすべきか、友達が言いたいことは何かをつかみ、同じ土俵の上で学び合う体制が整っていきます。

AIの進化が目覚ましい今、授業においても子どもたちはタブレット端末を使いこなし、個別に、そして協働で学ぶ姿があります。特に協働で学ぶ際に、「なんでだろう?」「なるほど!」という思いが頭の中を埋め、より充実した学びになるよう、聞くことを大切にした指導をしていきたいと考えています。